

黑龍江省檔案館編

東北日本移民檔案(黑龍江卷)

廣西師範大學出版社

黑龍江省檔案館編

東北日本移民檔案（黑龍江卷）



廣西師範大學出版社
· 桂林 ·

目 录

1	滨江省海伦地区农业经营标准案 满铁调查部 一九三九年二月	1
2	第一次、第二次、第四次(哈达河)、第五次(黑台)、第六次(龙爪)开拓团畜产情况调查报告	
	(极秘) 满铁调查部	200
3	第三次营业报告书(一九三九年四月一日至一九四〇年三月三十一日) 满洲拓植公社	271
4	第二次牡丹江省开拓团长会议要纲 一九三九年十一月十六日至十七日	305
5	牡丹江省开拓概况 (秘)	388
6	一九三九年度事业计划书 满洲拓植公社	456
7	北满农地开拓会社设立要纲案 (极秘) 满铁经济调查会 一九三六年九月	462
	第一 设立要纲	
	第二 事业计划	
	第三 资金计划	
	第四 收支预算	

保 16.800
請購農具 26
丁費分 280-10
印 130

昭和十四年二月

濱江省海倫地區營農模範案

滿鐵・調查部

第一章 地理概況

一 地區ノ自然的條件

1 入桓豫定地區ハ濱江省海倫縣第五區ニアリ北ハ通肯河ヲ境ニシ龍江省ニ接シ濱北線沿線海倫縣城ヨリ東北方約三十二軒ノ地點ニアル此ノ間立派ナ警備道路カ通シ交通至便ナ地デアアル(北緯四七度四分東經一三七度二〇分)

2 地區ハ緩カナ四ツノ丘陵カ連ナリ各陵線ハ北部通肯河ニ傾斜シテ

此ノ通肯河ハ水深五尺幅五〇尺ノ水流ヲ形成シ地區北境線ヲ東ヨリ西ヘ向ヒ流レ地區内丘陵ニ介在スル凹地(雨期ニハ濕地ヲ形成スル)ハ並行シテ該河ニ注イテ居ル如ク形成サレタル地勢デアアル又此ノ傾斜地低部ハ淺レタル採草地ヲナシテ居ル

斯カル地勢ノ爲最東部地域ニアル凹地ト通肯河トノ合流地區ヨリ水路ヲ構築スレハ地區内西北區ニ九〇町一、一二〇町歩ノ開田ハ可能ノ如ク思料サルル

3 氣象ニツキ見ルト年降雨量ハ五三〇立方耗ニテ之カ分布ハ六、七八ノ三箇月間ニ五〇%餘集中サレ居リ所謂雨期ニテ全滿ヲ通シテ同様勞働可能日數カ激減シ居ル状態デアアル

無補堤防ハ約一四五日内外テ三月上旬ヨリ四月ニカケテ急激ニ洪水ノ上昇ヲ見、九月下旬ヨリ十月初旬ニカケテ其ノ下降ヲ見ル。土壤ニ就キ觀ルニ地區ノ高イ地域ハ一般ニ洪積層ノ黑色壤ヲ以テ六〇センチメートル深度ノ表土テ第二層ニ黑褐ノ重粘ナ埴土カアル又凹地及河川ノ流域ニ沿フ一帶ハ沖積層ニシテ表土ハ一米以上ノ豊沃ナル地域ヲ形成ス。

4 地下水ニ就テ見ルニ其ノ水位ハ東ニ向フニ從ヒテ深ク本部建設課定地區ニ於テ一〇米東部對店ニ於テ三五米以上ニ及フ箇所アル水質ハ無色無味無臭清涼ニシテ煮沸スルモ濁濁ヲ生セス飲料ニ供シ得ル良水ナリ。

以上ノ自然的諸條件ヨリ見テ北滿ノ小麥地帯トシテ理想型トモ謂ヒ得ルト同時ニ畑作營農ノ開拓豫定地トシテ好適ナリ。

二 地區ノ社會經濟的條件

1 本地區ハ清朝末期三十三年前ニ現在ヨリ戸口モ多ク農地トシテ開墾セラレタルモ民國六年頃ヨリ治安定マラス匪賊ノ蹂躪ニマカセニ荒地ト化シテ豊沃ノ地帯耕セラレ現在ニ及ヘリ。

2 本地區ハ約三二軒ノ警備道路ヲ以テ縣城ニ同シクニ五軒ニシテ濱

北線は北線ニ通スル交通至便ナル區域ナリ此ノ整備道路ノ幅ハ約一〇米ニシテ雨期ノ降水量一日ニ一五立方尺以上ノ場合ハ二日―三日間「トラツク」ノ交通不可ナルモ他ハ概シテ良好ナリ

3 勞力労働者ノ供給源ハ海濱縣城及地區近隣ノ長家ニシテ一般ニ小麥收穫期ヲ除ク以外ハ概シテ豊富ナリ農耕期ニハ城内ヨリ得ラレ其ノ他ノ期間ニアリテハ近隣農家ヨリ得ラレ建設勞力ノ蒐集ニハ頗ル便利ナルモ目下小麥收穫時ニ於ケル勞力賃銀ハ騰貴ノ一途ヲ辿リツツアリ將來開拓農民ハ斯カル狀勢ニ鑑ミ機械力畜力農具ヲ取り入レタル新農法ニ依リ進マサルヘカラス

4 海倫縣城ハ濱北線中最大ナル經濟力ヲ有スル都會地ニテ殊ニ農産物ノ集散據點テアル此ノ城内ニハ一九戸ノ棧棧存在セルヲ見テモ此ノ間ノ事情ヲ推察シ得ル又城内ニハ人口四萬五千人農産加工業カ發達シ製粉醸造兩工場ニ頗ル大資本ノモノカアル
 新穀ニ農産物ノ消化ニハ頗ル好個ノ市場ヲ形成シ開拓地將來ノ經營ニ良好ナル立地條件テアルハ諒フヲ要シナイ

三 衛生狀況

1 風土病

3 衛生的ニハ、健康地ニシテ水質可良ナル爲當地區内ニハ風土病ヲ認

メストキニカ氏州ニ罹レルモノアルトナリ

2 獣疫

豚畜疫ニハ一疫ニ鼻疽、炭疽カ存スルモ之カ防戩ハ今後ノ...ニ
 存タサルヘカラス然レトモ隣接群馬村開拓區ニ於テハ入植後二、三
 罹病馬（鼻疽）ノ購入アリタルモ直ニ之カ處置ヲ爲シ目下患馬シ見
 ス鼻疽ノ外家畜傳染病ハ各家畜ヲ通シテ未タ發見セラレサル狀ニナ
 リ

四 治安狀況

本縣ノ治安ハ東部山地ニ多少ノ匪賊小集團カ出沒シ開拓豫定地區ニモ
 之カ爲一應ノ警備ヲ要スル現況ニアリ

第二章 移設要領

移民團ハ入殖初年度ヨリ第四年度迄共同經濟時代トシ最初ノ三箇年間ニ於テ土木建築等營農ノ基礎的建設ヲ遂行スルコトトシ第四年度ニ入りテ營農手段ヲ整備シ個人經濟移行ニ必要ナル諸準備ヲ行フ
又移民團ハ現地入殖ト同時ニ協同組合ヲ結成シ組合精神ヲ全事業ニ浸潤セシメ堅キ結束ノ下ニ左記要領並計畫ニ依リ建設ノ遂行ヲ期ス

第一節 入殖要領

- (1) 團幹部並先遣隊六〇名ハ二月中ニ後三井子現地ニ入殖シ約二箇月間滿拓建設班ノ協力ヲ得テ團ノ設營準備ニ従事スルモノトス
- (2) 先遣隊宿舍ハ假宿舍トシ後三井子部落ノ農家ノ一部ヲ借り入レ設營ニ當ル。勿論之ヲ手續ハ現地各機關トノ聯絡ヲ緊密ニシ現地機關ノ指導協力ヲ得テ實施ス
- (3) 尙先遣隊六〇名中約四〇%（二四人）ハ基幹先遣隊トシ現地訓練所ノ教育ヲ受了セルモノヲ以テ之ニ當テ且所要ノ特技者ヲモ含ミ部落建設ヲシテ自力設營ノ線ニ副ハシメントスル
- (4) 建設、農耕及資金ノ諸計畫ハ滿拓、團幹部、組合役員協力ノ下ニ樹立スル

第二節 團別設計書

第一項 先遣隊建設作業並資材ノ調達

(1) 家屋建築ハ原則トシテ請負ニ依ルモ團員ハ之ニ要スル運輸雜務(苦力監督等)ニ當ル

イ 家屋ハ次年度本隊入殖ニ備ヘ共同宿舍ヲ五箇所ニ一棟宛建築シ部落設置ノ據點トスル(此ノ建物ハ將來個人家屋整備後ハ共同産業施設トナル)

ロ 本部所在部落ニハ共同産業施設ノ一部タル倉庫一棟、鍛工兼蹄鐵工場、醸造場ヲ設置スル

(2) 土木工事其ノ他

灌溉、排水、道路ノ構築其ノ他一般農事ト關聯スル設計工事指導監督ニ従事スル

(3) 資材ノ蒐集並調達

建設ニ要スル資材ノ一部ハ海倫縣城内及地區ニ隣接セル第六次開拓團タル群馬村ヨリ購入シ建築材料及生活必需品ノ一部ハ滿拓公社ノ斡旋ニ依リ購入スル
之等物資ノ輸送ニ關シテハ鐵道總局ト聯絡ノ上可及的速ニ且簡易化ヲ計リ實施スル

第二項 家族招致

(1) 四島ノ家族招致ハ第二年度ヨリ開始シ其ノ時期ハ毎年冬季ノ農閑期ヲ利用シテ實施ス、入殖時團員中約八〇%カ家族持テ他ノ二〇%ハ獨身ト想定シ前者ハ政府補助金ノ交付ニ依ル家族渡航費ヲ得テ第二年度第三年度ニ招致ヲ完了シ他ノ獨身者ハ第四年度、第五年度ニ於テ結婚ヲ終リ妻ヲ招致スル。

(2) 家族招致ノ年度別割合ハ第二年度第三年度ニ於テ全團員ノ四〇%宛第四年度一五%第五年度五%トシ第五年度末ニハ全團員一戸ヲ構成スルコトトナル。

(3) 右ノ如キ割合ニ依リテ家族招致力行ハレルト同時ニ、出生率一〇〇%ナルヲ以テ入殖地ノ人口累増ハ頗ル顯著ナルモノアリ之カ團員同妻同子供出生兒、緣故者ニ分類シテ累増經過ヲ表示スルト次表ノ如クテアル。

人口並消費人口累増表

種別	人口實數						團員
	子 供	子 供	妻	子 供	緣 故 者	全 人 口	
第一年度	1	1	1	1	1	60	60
第二年度	1	1	1	1	1	300	300
第三年度	120 (40%)	120	120 (40%)	120	24	564	504
第四年度	240 (40%)	240	240 (40%)	240	48	948	708
第五年度	285 (25%)	285	285 (25%)	285	70	1,673	785
第五年度 一戶當	0.95	0.95	0.95	0.95	1.9	89	62
第六年度	1	1	1	1	4	1,142	828
第七年度	1	1	1	1	4	1,142	828
第八年度	1	1	1	1	4	1,142	828

備考

緣故者中ニハ團員ノ兩親、兄弟、姉妹ヲモ含ム

消費員數

子供 妻 子供 緣故者 全人口

計 60 300 504 708 785 828 828

子供

1 1 120 240 285 285 285

妻

1 1 120 240 285 285 285

子供

1 1 120 240 285 285 285

緣故者

1 1 24 48 70 70 70

全人口

60 300 564 948 1,673 1,673 1,673

消費員數

60 300 504 708 785 828 828

子供

1 1 120 240 285 285 285

妻

1 1 120 240 285 285 285

子供

1 1 120 240 285 285 285

緣故者

1 1 24 48 70 70 70

全人口

60 300 564 948 1,673 1,673 1,673

消費員數

60 300 504 708 785 828 828

子供

1 1 120 240 285 285 285

妻

1 1 120 240 285 285 285

子供

1 1 120 240 285 285 285

緣故者

1 1 24 48 70 70 70

全人口

60 300 564 948 1,673 1,673 1,673

消費員數

60 300 504 708 785 828 828

子供

1 1 120 240 285 285 285

第三項 部落分設要領

(3) 分設過程

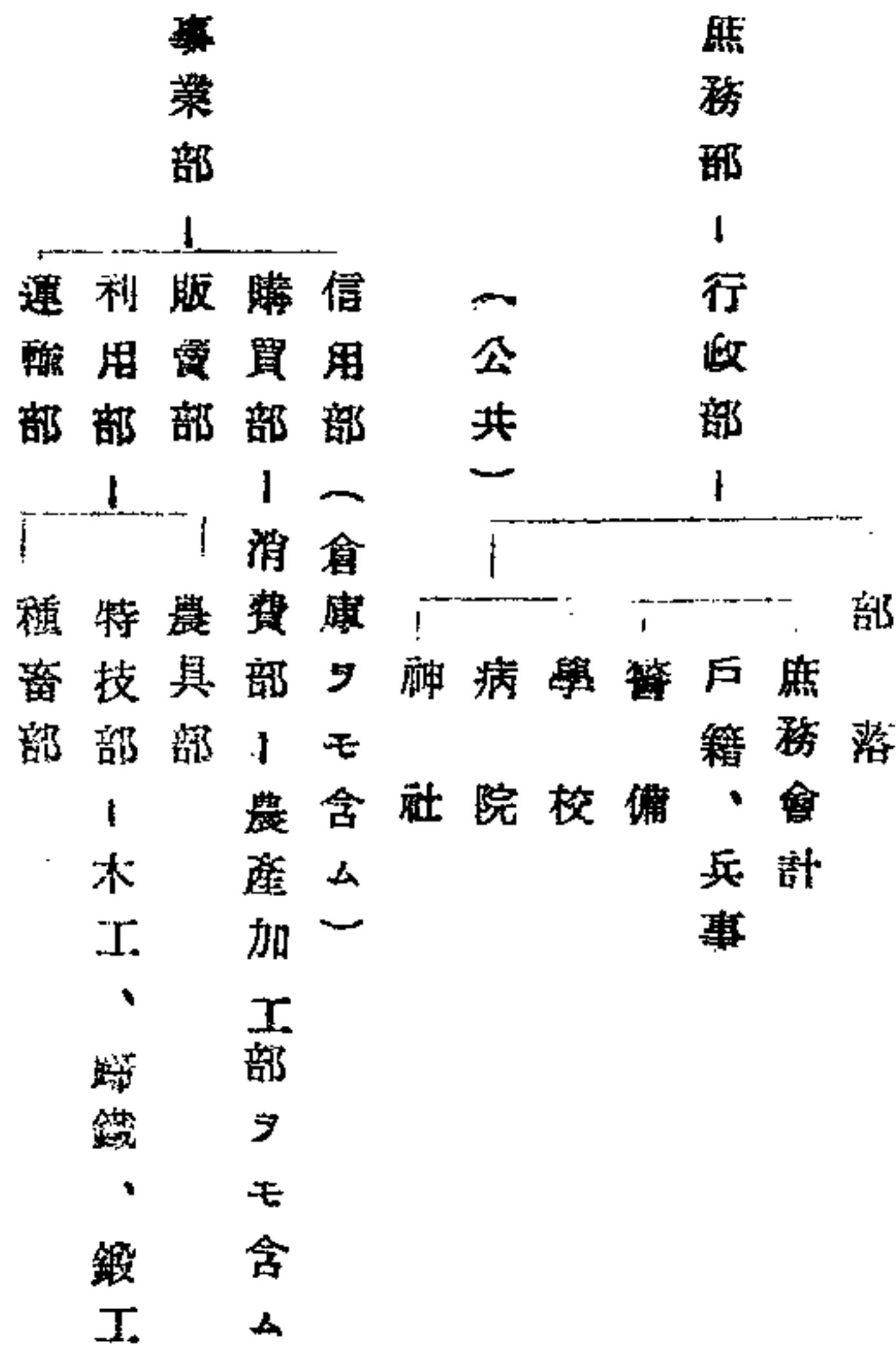
- イ 初年度先遣隊ハ本部所在部落ニ共同生活ヲ爲ス
- ロ 第二年度本隊入植後ハ本部部落(九〇戸)一甲部落(六〇戸)一乙部落(六〇戸)一丙部落(六〇戸)一水田班(三〇戸)ノ五部落ニ分宿、團統制下ニ部落別ノ耕作炊事ヲ行フ
- ハ 第三年度ニ至リテ一〇戸ヲ以テ全團ニ一〇區ヲ形成シ團統制下ニ各區別ノ共同耕作、共同炊事ヲ行フ
- ニ 第四年度ニハ各區内ヲ三組ニ分割シ一〇戸ヲ以テ一組ト爲シ團統制下ニ組別共同耕作炊事ニ入ル
- 斯クシテ全團ニハ三〇組形成セラレ、將來個人農家經營ニ入ルモ此ノ組單位ノ共同作業ハ部分的ニ取り入レラレ協同體ノ圓滑ナル發展ヲ期ス

(2) 團ノ組織

團ノ行政並産業組織ハ「團即組合」ナル確固タル協同體トシ、之ヲ建設ノ進歩ニ伴ヒ遂次整備スル。入植當初ニ在リテハ團本係ヲ置キ、部落ニハ部落長ヲ置キ、協同體ノ強化統一ニ努メ、之ヲ圓滑ナル運営ヲ計ル

イ 組織ノ開拓共同體ノ組織ハ次表ノ如クテアル

團本部



備考

共同經濟時代ノ利用部内ニアル農産加工部ハ個人經營ニ移行ト同時ニ購買部ノ統轄スル所トナル

團員ノ作業分擔

團員ノ共同經濟時代ニ於ケル作業ハ入植當初建設業務ニ集中サル

全戸数、區、組、戸数	作 業 別 人 員							第一年度	第二年度	第三年度	第四年度
	(專 故)	家 事	水 田	畑 作	本 部	連 隊	建 築				
六〇戸	三〇	一〇	一〇	二〇	九〇	五〇	三〇	六〇人			
三〇〇戸	一〇	一	一九	(二六)	一四五	三七	(六)	三〇人			
區 三〇戸	一	一	一	(二)	一六	四	七	(一)人			
三〇〇戸	三	一	三〇	(二九人 二七戸)	一八〇	三〇	(三)	三〇人			
總計				含縁故者	又ハ妻 ニテ行フ						

ルモ、農業經營ノ技術改良ニ力行ハルルニ伴ヒ作業者人員ハ漸次
 移行シ適宜變更ヲ要スルモノナリ
 即チ入植當初ハ建設作業ニ多數ヲ要スルモ、漸次全國經營ノ生産
 手段充實ニ從ヒ農耕作業員數ヲ増加スルモノトス
 A 全國作業別人員配當表

12

		備考												
		B 第三年度、第四年度（一）内員數ハ水田班員ナリ												
		本部作業別勤務員數												
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
		本部事務	出張所	兵器	警備	鍛土	蹄鐵	護造	精穀	自動車	道路	小學校	診療	炊事當番
C	建築運員數	五名	二名	二名	一八名	二名	二名	四名	三名	四名	三名	一名	二名	二名
	計													五〇名
		二〇一九〇人												

第四項 建築計畫

團ノ建築計畫トシテハ第一年度先遣隊ハ入植ト同時ニ共同宿舍ノ建築並
 第二年度入植ニ必要ナル共同宿舍建築ノ準備ヲナス（第二章第一節參照）
 第二年度個人家屋ノ建築ハ家族招致ノ計畫ト連聯セシメ第二年度五〇%
 第三年度三五%第四年度一五%ノ割合ヲ以テ三箇年間ニ完成スルコトト
 ス

建築方法ハ請負形式ヲ用キ團員ハ用材ノ運搬採集等ニ勞力ヲ提供シ建築
 費ノ節減ヲ計ル

個人家屋ハ腰煉瓦デーション積建坪一五坪トシ採煖ハ壁ペーシカト炕ト
 ノ併用ニ依ルコトトスル

石家屋ノ建築ハ團ノ建築計畫ニ基キ滿拓公社ノ協力指導下ニヨリ實施ス
 ル住宅建築費ハ一戸當リ約八〇〇圓ナルモ現金支出ハ團員ノ作業協力ニ
 ヨリ五六〇圓ニ節減セシム

第五項 農耕計畫

入植當初ノ農耕ハ建設計畫遂行ニ重點ヲ置ク爲先ツ團員ノ蔬菜ト自給可
 能程度ニ止メ一次家畜飼料ノ自給糧食ノ自給ヘト發展ノ過程ヲ進ルヘク
 計畫ス

13 而シテ本地區ハ自然的經濟的條件ヨリシテ畑作地帯ナレハ水田耕作ヲ